

パプアニューギニアで救援活動

「衛生状態が悪化」

AMD A報告

津波で多数の被災者が出たパプアニューギニア北部に、AMD A（アジア医師連絡協議会）が派遣した緊急救援医療チームが

帰国し五日、チームの一人、護婦中原美佳さん（三〇）が大府吹田市津雲台、看 岡山市檜津の本部で報告



会見した。

中原さんは、第一次派遣チームとして先月二十三日、医師二人と現地入り。被害の中心だった西セビク州アイトベから北西約十五キロのマロル地区（人口約三千人）を拠点に活動した。

同地区も壊滅状態。医療施設に訪れる患者は一日約五十人で、負傷部分の化のう、肺炎やマラリアがほとんど。

中原さんは「効果的な活動ができた」としつつも、「被災者は津波を恐れて山奥に避難し、治療のフォーができなかった」と活動を振り返り悔やんだ。

現在、放置された遺体などで水質汚染が進み、マラリアも流行するなど衛生状態が悪化しているという。

マロル地区の医療施設で救援活動をする中原さん（右）